

安倍史跡公園(あべしせきこうえん)

校区(こうく)の中心にある安倍史跡公園は、安倍文殊院(あべもんじゅいん)から約(やく)300メートルほどはなれたところにある飛鳥時代(あすかじだい)のおてらの跡(あと)です。この地域一帯(ちいきいったい)は阿部一族(あべいちぞく)の本拠地(ほんきょち)と言われていています。昭和(しょうわ)45年3月に史跡公園としてお寺のあとが整備(せいび)されて残(のこ)されています。

安倍寺は大化の改新(かいしん)(645年)の時の左大臣(さだいじん)、安倍倉梯麻呂(あべのくらはしまろ)が建てたとされています。しかし鎌倉時代(かまくらじだい)の火災(かさい)により現在(げんざい)の安倍文殊院の地に移(うつ)されたと伝(つた)えられています。



塔(とう)の跡(あと)



塔(とう)の跡(あと)



安倍史跡公園

公園の北に残っている平窯跡(ひらがまあと)は鎌倉時代のもので安倍文殊院を建てるための瓦(かわら)がここで焼(や)かれた可能性(かのうせい)があります。



平窯跡(ひらがまあと)